

業績目録の記載要領

- 1 業績目録は、A4判用紙に記載する。
- 2 業績は、Ⅰ.著書、Ⅱ.総説、Ⅲ.原著（Ⅲ-1.原著、Ⅲ-2.ケース・調査報告）、Ⅳ.その他（Ⅳ-1.学位論文、Ⅳ-2.その他）、Ⅴ.学会発表に分け、Ⅰ～Ⅳには一連番号を付して発表年代順に記載する。Ⅴ.学会発表は記載例のとおり番号を付す。

Ⅰ. 著書

現在までの蓄積された知識を系統的にまとめ、1冊で完結している資料をいう（単行本、分担執筆など）。

- (1) 著者が単独で執筆した著書にあつては、総ページ数を記載すること。
- (2) 数名の著者が共同で分担執筆している著書にあつては、本人の担当分について章・節、頁数を列記する。
- (3) 編者のあるものについては、著者名とは別に編者名を記載する。
- (4) 同一の著書に2つ以上の論文、章・節を執筆している場合は、「枝番」をつけて記載する。

Ⅱ. 総説

特定分野の最新の研究動向を全体的に展望し、研究の現状・問題点・今後の動向などを示唆するレフリー制を採る専門雑誌に掲載された論文とする。依頼・投稿の別に係わらず、レフリー制を採らない雑誌に掲載されたものは「その他」とする。

Ⅲ. 原著

他者が発表していないオリジナルな雑誌論文で、下記のとおり分類して記載する。

Ⅲ-1. 原著

(1) いわゆる「原著」を指し、以下のケース・調査報告を含めない。緒言・方法・結果、考察・引用文献で構成され、レフリー制を採る雑誌掲載のものに限定する。

Ⅲ-2. ケース・調査報告

(1) 症例（事例）、調査、専門的体験等に基づいて記述されたもので、オリジナルな内容でレフリー制を採る雑誌に掲載されたものを指す。

Ⅳ. その他

著書、総説、原著以外のものについては、下記のとおり分類して記載する。

Ⅳ-1. 学位論文

(1) 学位論文は、ここに分類し、論文名・総ページ数などを記載する。

Ⅳ-2. その他

- (1) 外部研究資金等の報告書は、ここに分類し、総ページ数を記載する。
- (2) 辞典、教科書、訳書、商業紙、自らの執筆部分はないが監修・編集あるいは監訳したものは、ここに分類する。

Ⅴ. 学会発表

国内外の学術集会における講演・シンポジウム・一般発表を記載する。

V-1. 特別講演、教育講演、シンポジウムを記載する。

V-2. 国内外での一般発表を記載する。

- 3 印刷中（in press）の場合は、掲載証明書を必ず添付する。
- 4 提出する論文には、番号左側に○印を付ける。提出論文の表紙右上に業績目録の分類・番号を表示する。
- 5 学位論文には番号左側に◎印を付ける。
- 6 著者名のうち、本人名にアンダーラインを引く。

7 業績目録は、別紙「記載例」のとおりとする。

8 著書、論文等は以下のように記載する。

1) 雑誌

著者名：題名. 雑誌名 巻（号）：頁-頁，西暦年

(例)

- 1 札井太郎, 医大花子：看護学生の実習成績と性格特性及び自我状態との関連性についての検討. 交流分析研究 22(1)：61-69, 2017
- 2 Satsui T, Idai H: Three-dimensional structure of maize α -zein proteins structured by small angles X-ray scattering. Biophys. Acta. 1339: 14-22, 2018
- 3 Walker JM, Akinsanya JA, Satsui T, et al.: The nursing management of elderly with pain in the community: study and recommendations. J Adv Nurs 15: 11-1161, 2020

2) 単行本

(1) 著者名：書名. (巻). (版). 発行地, 発行所, 西暦年, p 頁-頁

(2) 著者名：分担項目名. 編者名. 書名. (巻). (版). 発行地, 発行所, 西暦年, p 頁-頁

(例)

- 4 札井太郎：手術基本手技. 東京, ○○書院, 2017, p57-76
- 5 札井太郎：発達障害. 日本作業療法士協会編. 作業療法概論, 作業療法全書 1. 第2版. 東京, ××医書出版, 2019, p196-233
- 6 札井太郎：第3章 生命倫理とターミナルケア. 北海四美編. より良い生と死を求めて. 東京, ○○堂, 2020, p123-135
- 7 Goligher JC, Satsui T, Nixon HH: Surgery of the anus rectum and colon. London, Baollore Tindall, 2021, p424-501

3) 電子文献

著者名：題名. 誌名. 西暦年, 巻数：頁-頁. doi または入手先 URL, (アクセス年月日)

(例)

- 8 保健二葉, 大学三郎, 札井太郎：英文作成支援ツールとしての用例文献検索システム ESCORT. 情報管理. 2019, 51:251-259.
<http://joi.jls.jst.go.jp/JST.JATAGE/johokanri/51.251>, (2022-03-09)
- 9 Mabon SA, Satsui T, Misteli T: Differential recruitment of pre-mRMA splicing factors to alternatively spliced transcripts in vivo. PLoS Biol. 2020, 3:e374.
doi:10.1371/journal.Pbop.00303740, (2022-03-09)
- 10 厚生労働省：C型肝炎について一般的なQ&A. 改訂版. 2021.
<http://www.med.pr.jp/kansen:bancdc/cqa.pdf>, (2022-10-26)

業績目録〔記載例〕

令和〇年〇月〇日
札井 太郎

I. 著 書

- 1 札井太郎：発達障害. 日本作業療法士協会編. 作業療法概論, 作業療法全書 1. 第2版. 東京, ××医書出版, 2019, p196-233
- 2 Satsui T: Effects of antidepressant on transmembrane signaling. Signal transduction in affective disorders. Tokyo, Springer-Verlag, 2020, p1-60
- 3-1 札井太郎：第3章 生命倫理とターミナルケア. 北海四美編. より良い生と死を求めて. 東京, ○○堂, 2020, p123-135
- 3-2 札井太郎, 医大花子：第4章 ターミナルケアにおける患者の自己決定権の尊重. 北海四美編. より良い生と死を求めて. 東京, ○○堂, 2020, p136-147

II. 総 説

- 4 札井太郎, 医大花子：看護学生の実習成績と性格特性及び自我状態との関連性についての検討. 交流分析研究 22：61-69, 2022

III. 原 著

III-1. 原 著

- ◎5 Satsui T, Idai H: Three-dimensional structure of maize α -zein proteins structured by small angles X-ray scattering. Biophys. Acta. 1339: 14-22, 2018

III-2. ケース・調査報告

- 6 札井太郎：小児がんによる安楽障害に関連したセルフケア不足シンドロームを呈する患児への看護. 小児看護学研究 10(1):1-10, 2023

IV. その他

IV-1. 学位論文

- ◎7 札井太郎：認知症高齢者を在宅介護する家族へのメンタルケアを目的とした看護介入の効果. ○○大学博士論文. 2010, p1-120

IV-2. その他

- 8 札井太郎, 保健二葉, 大学三郎：音像定位によるフィードバックを利用したバランストレーニングに関する基礎的研究. 令和〇年度文部省科学研究補助金研究成果報告書. p1-128, 2021
- 9 Ohta G. (札井太郎訳)：運動コントロールの生理学. 大学三郎監訳. 運動行動のメカニズム. 東京, ××医書出版, 2023, p63-87

V. 学会発表

V-1. 特別講演、シンポジウム

- 1 札井太郎：運動療法におけるマニュアルセラピーの意義. 第〇回〇〇リハビリテーション医療学会. 札幌. 2022, 11

V-2. 一般発表

- 1 Satsui T, Idai H, Hoken F: Expression of Po protein in sural nerve of a patient with HMSN type II. 〇th International Congress on Neuromuscular Diseases. Kyoto. (Muscle Nerve. suppl.: S237, 2020), 2020, 7
- 2 保健二葉, 大学三郎, 札井太郎, 北海四美：筋伸張 (muscle stretching) が張力に及ぼす影響. 第XX回日本理学療法士学会. 名古屋. 2021, 5
- 3 北海四美, 札井太郎, 大学三郎, 保健二葉, 医大花子：在宅における慢性疾患患児を持つ母親の養育上困難な事象に関する検討. 第XX回日本小児保健学会. 横浜. 2022, 9